

3年次生の選挙啓発高校 生出前講座を行いました

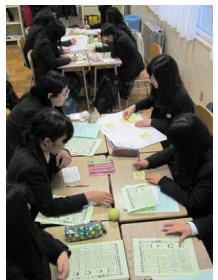
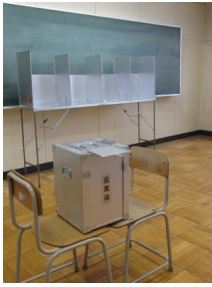
選挙権年齢をこれまでの 20 歳以上から 18 歳以上に引き下げる「**公職選挙法等の一部改正する法律**」に基づいて、2016 年度の参議院議員通常選挙で現 3 年次生も投票することになりました。そこで、北海道選挙管理委員会と札幌市選挙管理委員会の協力を頂き、選挙の意義を学び、模擬投票を通じて、選挙の仕組みや投票参加の意義について理解を深め、将来の政治参加を促す契機となるよう、昨年 **11 月 2 日(月)**に出前授業を実施しました。

最初に体育館に集まって、北海道選挙管理委員会委員長の高橋一史氏の挨拶に続いて、事務局主査橋爪一樹氏の説明があり、選挙制度の概要や投票率の推移、投票の意義などを聞きました。

続いて会場を各 HR 教室に移して、仮想候補者 4 人の選挙公約（被選挙権年齢について）を**ワールドカフェ**方式でグループ討議をしました。

- ①被選挙権は現行通り、参議院議員、都道府県知事は 30 歳以上、それ以外 25 歳以上とすべき
- ②被選挙権も 18 歳以上にすべき
- ③学生の除外など、一定の条件を付けて 18 歳に引き下げるべき
- ④被選挙権は 25 歳に統一すべき

普段はなかなか意識することがなかったこれらの主張に対して、最初はぎこちない





話し合いが、しだいに自分達の意見を表明し合いながら、回りの意見にも耳を傾ける雰囲気へと変わっていきました。**ワールドカフェ**のまとめは、グループ内の意見を集約してクラス全体に発表しました。

最後は実際の記入台や投票箱を使って本番さながら**模擬投票**を行い、クラスの選挙管理委員が**開票作業**を体験しました。



体験した生徒達は「緊張したけど、良い経験になった」とか「本当に投票したい」と好意的に話しをしていたり、「政治のことにももっと関心を持たなければ、実際誰に投票して良いか迷ってしまう」と心配する声もありました。



開票を担当した生徒は、「折った投票用紙が自然に開いていくので、開票作業がやりやすかった」「間違わずに集計するのにとても緊張した」と、なかば興奮ぎみに話をしていました。

なお、模擬投票の結果は、①の【現行通り】を主張した候補が 46%にあたる 112 票を獲得し一位となりました。理由として「経験と知識が豊富な人に議員になってほしいから」と“社会経験”というキーワードを拠り所とした意見が多数を占めました。また 20%の得票数で二位となった②の【18 歳賛成意見】には「18 歳には 18 歳なりの考えがある」「日本を変えたい」というような真剣な発言も多くみられ、日本の将来は決して暗くないと感じられました。



今回、準備や適切な助言を頂いた選挙管理委員会の方々に感謝申し上げます。